

# 令和2年度 学校評価自己評価表（最終）

学校教育目標 『夢に向かいチャレンジする津田小の子』 ～自ら考え行動する子・自他を大切にする子・元気にチャレンジする子～

廿日市市立津田小学校

ミッション 「夢に向かい諦めずに夢を育む児童の育成」 をするために知・徳・体のバランスのとれた児童を育成する

ビジョン 児童・教職員・保護者・地域が共に誇れる学校をめざす

中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	担当	評価項目・指標・目標値	評価	結果（●）と考察（☆）	今後に向けて（○）	コメント	
確かな学力（知）	・基礎、基本の力を身に付け、自ら学び、考え、表現する「確かな学力」を育む	◎基礎的・基本的な知識・技能の定着	教務部	①児童に確かな学力をつけている。【市共通項目】廿日市学力定着状況調査（4年）の国、算、（理）の問題で60%以上正答した児童の割合	80%以上	A	●「全国学力・学習状況調査」結果…国語60点以上76.2% 40点未満4.8% 算数60点以上71.4% 40点未満0% ●「廿日市学力定着状況調査（4年）結果…国語60点以上73.7% 40点未満5.3% 算数60点以上68.4% 40点未満10.5% ●算数学期末テスト（12月）…1年100%2年100%3年100%4年94%5年65%6年76% 全体84% ☆算数学期末テストの全体は2学期に比べ6%上がった。特に5年生の結果が伸びており、放課後指導等の成果だと考える。	○中学校区で連携を図り、児童生徒の学力の実態を把握し、校内での取組に生かす。 ○「全国学力・学習状況調査」の結果を分析したり、改善策を考えたりする研修を継続する。 ○算数ノートの掲示により、児童がよりよい考えを取り入れ、生かせるようにする。 ○主体的な学びにするための授業改善を行う。	・学力が定着していて素晴らしい。 ・放課後指導の成果が出ている。 ・授業改善の充実を望んでいる。 ・ある中学生は、小学校からのつまずきが解消されておらず、学力の低さから高校進学の見込みが狭まっているとの話がある。子どもたちの将来のために取組を続けてほしい。
				②全学年算数の学期末テストの問題で、平均正答率70%以上の児童の割合	70～79%	B			
				・児童が自ら進んで家庭学習に取り組む姿勢が身についている。 ・家庭学習の時間調査結果（各学年の設定目標時間のアンケート結果）	60～69%	C			
					60%未満	D			
豊かな心（徳）	・基本的な生活習慣を身に付け、思いやりをもって行動できる「豊かな心」を育む	◎家庭学習に自ら取り組む児童の育成	生徒指導部	・命を大切にし、自他を認めいじめを許さない、いじめをしない学校・学級集団になっている。	90%以上	A	●アンケート結果 児童「友達を大切にする」99→99%「学級のみならず認められる」81→93%「津田小学校はいじめのない学校」95→94% ●「いじめアンケート」の認知件数は0件。 ☆児童の自己有用感が高まった。また、いじめ件数も減っている。新型コロナウイルス感染が心配される中で児童の心情等が心配だが、今後もアセス等活用しながら実態を注視していく。	○アセスを活用し、自己有用感が低い等の児童の実態をつかみ、重点的に取り組む。 ○「いいことみつけ」を充実させ、児童の自己肯定感、自己有用感を高める。 ○「いじめアンケート」を定期的実施し、いじめの実態を早期につかみ、取り組む。 ○児童の自己有用感を高めていくために、委員会活動や学級における係活動等、自主的な活動の場を設定し、充実させる。	・素晴らしい結果である。皆が楽しい学校生活を送れるように願っている。 ・家庭や地域で自己有用感を高める活動ができるとよい。 ・「自己表現」を習得させることが大切である。 ・不登校児童の対応も含め、小中連携をしっかり図ってほしい。
				・児童の肯定的評価（級友関係、自己存在感関係項目）	80～89%	B			
				・「津田小ガイドブック」にあるマナーや規範意識を守ろうとしている。	70～79%	C			
				・児童・保護者・教職員の肯定的評価（あいさつ・そうじ項目）	70%未満	D			
豊かな心（徳）	・基本的な生活習慣を身に付け、思いやりをもって行動できる「豊かな心」を育む	○マナーや規範意識の育成	生徒指導部	・「津田小ガイドブック」にあるマナーや規範意識を守ろうとしている。	90%以上	A	●アンケート結果①児童「大きな声で挨拶をする」94→99%②保護者「子どもは出会った人に元気よく挨拶をする」84→87%③児童「掃除を時間いっぱいいていねいにやる」94→98%④児童「学校のきまりを守る」85→89%⑤教職員「児童は学校のきまりを守る」64→75% ☆掃除の意識や規範意識の高まりを見ることができた。「サンサンウィーク」等職員が意識統一し取り組んだ結果が出ていると思われる。	○「津田小ガイドブック」を活用し、生活規律の徹底を図る。 ○児童の生活や行動での課題を職員で共通認識をもち、「サンサンウィーク」や「月の生活目標」で指導に取り組む。 ○児童の規範意識を高めるための活動を、委員会や学級で設定する。 ○小中で連携した生徒指導に取り組む。	・登下校時の児童のあいさつがたいへんよい。 ・小中連携の生徒指導をしてほしい。 ・「あいさつ」をはっきりできる子が増えてほしい。 ・学校のきまりの中で何が守れていないのかを分析する必要がある。
				・児童の肯定的評価（「津田小ガイドブック」に書いてあることを守ろうとしている。）	80～89%	B			
				・児童・保護者・教職員の肯定的評価（あいさつ・そうじ項目）	70～79%	C			
				70%未満	D				
健康な体（体）	・健康への意識や体力を高め「健康な体」を育む	◎健康に対する意識を高め、歯科保健の実践を通じた子どもの口腔環境の改善	健康安全部	・自ら進んで体力づくりに取り組み、体力や運動能力が向上している。	8/12以上	A	●跳躍力と握力の体力測定を実施後、集計・評価する。跳躍力11/12→11/12 握力8/12→7/12（再テスト） ☆全体的に数値が上がった学年は増えたものの、再テストの結果については伸び悩んだ。	○実施時期（1月）や実施期間など、取組方法について工夫する必要がある。 ○臨時休業中の運動の推奨、朝トレでのハンドグリップの活用により、跳躍力・握力ともに、半数以上が県平均を超える結果となった。 ○跳躍力・握力以外の体力向上にむけた取組として、昔遊びなどの遊びを活用した体力の向上を工夫していく。	・握力への取組は経年でやっているが、成果を出すのは大変である。継続は力である。 ・コロナの影響もあるが、体力が大変落ちていると感じる。体力の向上に取り組んでほしい。 ・走る力がない。走り方（姿勢）を見ると、どの子も体幹が弱いと感じる。
				・体力づくりの取組の達成目標の到達度。跳躍力・握力における県平均以上の学級の割合（男女別）	6/12 7/12	B			
				・家庭の協力を得て、積極的に歯みがきをする児童の姿が見られる。	4/12 5/12	C			
				・1日3回の歯みがきができる児童が75%以上（歯みがきカレンダー）	3/12以下	D			
健康な体（体）	・健康への意識や体力を高め「健康な体」を育む	◎健康に対する意識を高め、歯科保健の実践を通じた子どもの口腔環境の改善	健康安全部	・歯みがきカレンダーの取組	75%以上	A	●歯みがきカレンダー1日2回できた児童（2学期）77.8%→（3学期）78.8% <内訳> 1年66.7% 2年81.8% 3年92.3% 4年78.9% 5年72.4% 6年85.0% ☆2学期よりできた割合が増えた学級が多かった。冬休み明けすぐの日程で定着しない児童が増えた学級も少しあった。担任がスタンプや細かく声掛けをして取り組んだ結果、わずかな変化だったが目標達成を継続できた。	○健康委員会が歯のクイズの作成をしたり、ポスターを教室に貼ったり、放送をする等の委員会活動を継続していく。 ○未処置歯の受診率が悪いので2学期懇談時に担任から再受診の通知を手渡した。今後も継続して家庭の協力を得るようにする。 ○学校医さん・歯科衛生士さんや、他機関が実施している歯みがき企画を活用して積極的に口腔衛生に取り組む。	・乳幼児期から佐伯地域が抱えている課題である。引き続きアプローチをしてほしい。 ・保護者対象の口腔衛生に関する講演を行うと意識をするのではないかと。 ・家庭こそ実践の場である。
				・歯みがき指導（学級ごとに年1回実施、学級活動・自立の時間）	65～74%	B			
				・1日3回の歯みがきができる児童が75%以上（歯みがきカレンダー）	55～64%	C			
				55%未満	D				
協働する教職員	・働き方改革に取り組むとともに、協働する職場作りをめざす。	○健康で生き生きとやりがいのある職場の創造	校内衛生委員会	①時間外勤務時間が月平均45時間を超えない教職員の割合	① 80%以上	A	●毎月始めに入退校時刻記録で時間外勤務の割合を確認する。45時間以上15人中4月3人・5月0人・6月5人・7月2人・8月0人・9月0人・10月6人・11月4人・12月3人 ●教職員アンケート「生き生きとやりがいをもちて勤務する」100→100%●教職員アンケート「『チーム津田』として一丸となって教育活動に取り組む」100→100% ☆80時間を超えた教職員はいなかった。	○「廿日市市の規則が1月から改定され、「1月について45時間及び1年について360時間を超えない範囲内とするため、業務量の適切な管理を行うものとする。」と示された。今後、45時間を意識して校内でも働き方改革を行っていきたい。 ○教職員が「チーム津田」を意識していることが喜ばしい。今年度は学校行事が行われず、一致団結しての動きが取りにくい面もあったが、全員が津田小のために尽力できたこととらえている。	・「チーム津田」素晴らしいです。大いに期待しています。 ・学校だけが努力しても、消化しきれない業務の多さも問題だと思う。時間外の保護者対応など、頭が下がる。先生が精神的に安定した状態で働くことができないと、結局子供に悪影響を及ぼすことになる。PTAとして雰囲気作りをしていきたい。
				②長時間勤務の縮減により教職員一人一人が健康で生き生きとやりがいをもちて勤務している。	60～79%	B			
				① 80%以上	90%以上	A			
				60～79%	70～89%	B			
40～59%	50～69%	C							
40%未満	50%未満	D							

◎重点項目 ★小中学校共通項目